

**気候変動と土地：
気候変動、砂漠化、土地の劣化、持続可能な土地管理、食料安全保障及び陸域生態系における温室効果ガスフラックスに関するIPCC特別報告書**

目次

- 前付け（2頁）
- 政策決定者向け要約（～10頁）
- 技術要約（図も含めて章ごとの要約で構成）（～20 - 30頁）
- 第1章：構成と背景（～15頁）
- 第2章：陸面・気候相互作用（～50頁）
- 第3章：砂漠化（～35 - 40頁）
- 第4章：土地の劣化（～40頁）
- 第5章：食料安全保障（～50頁）
- 第6章：砂漠化、土地の劣化、食料安全保障及び温室効果ガスフラックスの間でのインターリンケージ：相乗効果、トレードオフ及び統合的な対応の選択肢（～40頁）
- 第7章：リスク管理と持続可能な開発に関連する意思決定（～40頁）
- 囲み記事、事例研究及びよくある質問と回答（～最大20頁）
- 計：330頁以下

第1章：構成と背景（～15頁）

- 気候変動と砂漠化、土地の劣化、食料安全保障及び温室効果ガスフラックス間にある社会経済的、生物地球化学的及び生物物理的相互作用
- 気候変動、並びに社会経済的及び技術的变化の文脈における土地に対する追加的及び代替的需要、並びに土地の追加的及び代替的利用
- IPCC及びその他関連機関（例えば、IPBES、UNCCD、FAO等）による報告書との関係における本報告書の貢献
- 脆弱性評価、適応の限界、及び残存するリスクを含む、主要な概念と定義
- 不確実性の扱い
- 報告書の統合的な筋書き、各章の説明、順序、関連性

第2章：陸面・気候相互作用（～50頁）

- 砂漠化、土地の劣化、食料安全保障、持続可能な土地管理及び陸域生態系における温室効果ガスフラックスに影響を及ぼす気候の変化と変動性（極端現象を含む）
- 自然の生態系と管理された生態系（例えば、土壌、森林及びその他の土地被覆タイプ）における陸域の温室効果ガスフラックスと関連ストック：方法、現状、動向、予測及び駆動要因
- 気候に対する生物物理的及び非温室効果ガスのフィードバック及び強制力

- 負の排出量を含む陸地における適応及び緩和の選択肢が気候システムに及ぼす影響

第3章：砂漠化（～35 - 40頁）

- 砂漠化の特異的な性質
- 世界及び地域レベルで気候変動に関連する砂漠化の現状、最近の動向及び将来予測
- 砂漠化の気候起源及び人為起源の直接的・間接的駆動要因（干ばつといった極端現象を含む）
- 原因特定：気候起源及び人為起源の変化の区別
- 砂漠化の気候に対するフィードバック（砂嵐及び砂塵嵐を含む）
- 気候—砂漠化相互作用（過去の観測及び将来予測を含む）
- 気候が変化する中で砂漠化が自然システム及び人間システムに及ぼす観測された影響と予測される影響。エアロゾルと砂塵の役割、生態系サービス（例えば、水、土壌及び土壌炭素、並びに生物多様性）への影響、及び社会生態系システムへの影響（例えば、脆弱なコミュニティ、貧困、食料安全保障、生計、及び移住への影響）がこれに含まれる可能性がある。
- 変化する気候下で砂漠化に対する技術的、社会経済的及び政策的対応（経済的多様化、実現可能にする条件、コベネフィット、及び適応の限界を含む）
- ホットスポットと事例研究

第4章：土地の劣化（～40頁）

- 劣化につながるプロセスと、複数の時空スケールにわたるそれらの生物物理的、社会経済的及び文化的駆動要因
- 土地の劣化と気候変動の間のつながり及びフィードバック（極端現象（例えば、洪水や干ばつ）、侵食、並びにそれらが生態系及び生計に及ぼす影響を含む）
- 世界及び地域レベルで気候変動とつながる土地の劣化の現状、最近の動向及び将来予測
- 原因特定：気候起源及び人為起源の変化の区別
- 気候変動が土地の劣化に、土地の劣化が気候変動に及ぼす直接的・間接的影響、並びに主要な社会生態系システムの事後対応および事前対応の選択肢（土地の再生等）
- 気候が変化する中で土地の劣化が自然及び人間システムに及ぼす観測された影響と予測される影響。生態系サービス（例えば、水、土壌及び土壌炭素、生物多様性）への影響、及び社会生態系システムへの影響（例えば、脆弱なコミュニティ、貧困、食料安全保障、生計、及び移住への影響）がこれに含まれる可能性がある。

- コスト、インセンティブ、障壁及び適応の限界の検討を含む、より上層での統合的な対応（例えば、持続可能な土地管理（持続可能な開発目標（SDGs）との関連において可能な場合））
- ホットスポットと事例研究

第5章：食料安全保障（～50頁）

- 構成と背景：食料と栄養の安全保障（入手可能性、アクセス、利用、安定性、購入可能な価格）、食料システム、（取引と市場を含む）、農業システム（アグロフォレストリーを含む）、食料・エネルギー・水の結びつき及び砂漠化と土地の劣化の役割
- 世界及び地域レベルで気候変動とつながる食料と栄養の安全保障の現状、最近の動向及び将来予測
- 原因特定：気候起源及び人為起源の変化の区別
- 気候の変化と変動性（極端現象を含む）が食料と栄養の安全保障（食料生産、価格及び生計を含む）に及ぼす観測された影響と予測される影響
- 食料と栄養の安全保障が気候変動に及ぼす影響
- 全ての選択肢や活用方法及び適応の限界を考慮に入れた適応面での対応
- 食料の需要と供給に関連する温室効果ガスの緩和の選択肢
- 陸地における緩和の選択肢が食料と栄養の安全保障に及ぼす影響
- 適応と緩和の間の相乗効果及びトレードオフ（規模、つながり及びコベネフィットを考慮）、持続可能な土地管理
- 気候が変化する中で食料と栄養の安全保障を強化する対策が適応・緩和に及ぼす影響
- ホットスポットと事例研究

第6章：砂漠化、土地の劣化、食料安全保障及び温室効果ガスフラックスの間でのインターリンケージ：相乗効果、トレードオフ及び統合的な対応の選択肢（～40頁）

- 砂漠化、土地の劣化、食料安全保障及び温室効果ガスフラックスとシナリオの間の複合効果及び相互影響
- 対応の選択肢（持続可能な土地管理を含む）の経済的及び社会的側面：相乗効果・トレードオフ・副作用・コベネフィット
- 陸地における緩和の選択肢が土地の劣化、砂漠化、食料安全保障及び生態系と生態系サービス（例えば、土壌、淡水、生物多様性）に及ぼす影響
- 陸地における適応の選択肢が土地の劣化、砂漠化、食料安全保障及び生態系と生態系サービスに及ぼす影響、並びに適応の限界
- 陸地における負の排出量（森林、土壌及びバイオマス利用の役割など）及び人為的発生源と吸収源の均衡を保つ上でのそれらの役割
- 適応・緩和の相互作用とコベネフィット

- 土地をめぐる競争
- 事例研究

第7章：リスク管理と持続可能な開発に関連する意思決定（～40頁）

- 気候変動と砂漠化、土地の劣化、食料安全保障及びその他の開発圧力の間
の相互作用に起因するリスク（例えば、紛争、移住）
- 気候変動に起因する実質的なリスクの分野に対する管理面での対応
- 持続可能な開発及び気候変動への適応と緩和に影響を及ぼす対応の選択肢の
相乗効果とトレードオフ
- 砂漠化、土地の劣化及び食料安全保障の文脈における適応、緩和及び持続可
能な土地管理を促す多層にわたるガバナンス、制度及び意思決定

参考情報1：土地関係特別報告書サイト

<http://www.ipcc.ch/report/sr2/>

参考情報2：土地関係特別報告書アウトライン

http://www.ipcc.ch/meetings/session45/Decision_Outline_SR_LandUse.pdf